

第4章 近代

1 県南地域への鉄道敷設計画

明治三十三年（一九〇〇）羽ノ浦町出身の代議士板東勘五郎を代表とする発起人一名が、徳島と岩脇（羽ノ浦町）の間に鉄道を敷設する案をたてた。板東勘五郎はこの鉄道実現のために阿陽鉄道株式会社の設立準備をすすめていたが、発起人の多くが徳島鉄道㈱の役員でもあったことから岩脇までの鉄道を徳島鉄道の延長線として、徳島鉄道が建設することに話がまとまり、政府から敷設の仮免許も受けたが着工をずらせていた。そのうち徳島鉄道㈱自身が同四〇年九月、国に買収されたことによってこの計画は消滅してしまった。

2 阿土海岸線の敷設

明治四五年（一九一二）名西郡石井町出身の生田和平を代表とする発起人たちは阿南電気鉄道㈱を設立し、二軒屋から岩脇の間に軽便鉄道を通す免許申請を行った。この申請は政府によって一部修正変更の指示（区間を中田―岩脇とする、電気鉄道を蒸気鉄道とする）があつて、再申請し、大正元年（一九一二）一〇月に認可された。そし

て社名を阿南鉄道(株)と変更し、終点を最初の岩脇から古庄に変更して工事をすすめた。その期間中に羽ノ浦駅から支線として大京原を終点とする案も出て、大正二年九月一日付で免許状も下付されたが、この支線については工事に着手せず免許は取り消されている。その後、工事は順調に進み同五年一二月に中田(小松島市)と古庄間六マイル(九・六km)の鉄道が開通した。阿南鉄道は当初から那賀川以南の広い地域を想定しての鉄道計画を持っていた、取りあえずは新野まで通すよう考えていたが、資金上の都合で古庄までで止めたといわれている。

古庄まで開通になった大正五年以後の鉄道延長の動きは

- ① 新野への鉄道を待ちわびていた新野・桑野・長生などの住民は、大正一〇年八月に阿陽鉄道期成同盟会を創立し古庄から南島・長生・桑野を経て新野の馬場に至る鉄道の敷設を求めて運動を始めた。
- ② 大正一一年には富岡町を中心に関係町村を糾合して富岡町鉄道敷設期成同盟会を設立し、関係省庁へ陳情している。この期成同盟会が求める路線コースは、富岡・見能林・橋を経由して牟岐に至る海岸線コースで、創立委員として三〇名が名を連ねている。

③ 一方、海部郡町村会と同議会は、高知県の関係町村とともに国営鉄道としての四国循環鉄道を求め、その一環としての阿土海岸線の建設を求める陳情を関係省庁に行った。政府においても阿土海岸鉄道の重要性を認め、大正一二年に大木達吉鉄道大臣が、昭和二年には小川平吉鉄道大臣が高知県と徳島県の現地を視察し、早期の実現を示唆して地元民を喜ばせた。そして羽ノ浦から牟岐間三一マイル(四九・六km)の鉄道建設案が昭和四年二月の第五六帝國議會で可決された。そこで翌五年から測量を始め、年次的に工事を進めていく事業計画案も作られていたが、同年七月に田中内閣が総辞職し、浜口内閣から若槻内閣へと移る過程で財政緊縮政策がとられて阿土海岸鉄道案は中断され、羽ノ浦と牟岐間の鉄道建設は見送りととなり、地元住民を失望させた。

3 阿土海岸線の建設と中島駅の開業

阿土海岸鉄道が再び陽の目を見るようになったのは、昭和七年になってからである。この年は、陸海軍将校らが首相官邸などを襲撃し、犬養首相を射殺するという五・一五事件の起こった年である。この年の一月から二月にかけて鉄道省の政務次官名川侃市及び鉄道大臣三土忠造が相次いで来県し、阿土海岸線を視察している。そしてこの視察後に羽ノ浦から牟岐間についての鉄道建設案が明らかにされた。同八年に着工し同一五年に完成させるというものである。

那賀川以南への鉄道路線は、最初板東勘五郎の計画した平地線(岩脇へ古庄・南島・長生・桑野・新野)とその後起こった海岸沿線(富岡・見能林・橋を経て日和佐に至る)の二つの案があって、それぞれ関係町村民をバックに国や関係省庁に陳情を繰り返してきた。平島村の主産業である製材・木工品の積出港として中島港があったが、陸送には鉄道の敷設が必要不可欠であり、更に、古庄駅・桑野駅間の平地コースでは、那賀郡の中心地である富岡を通らないなどの理由から、平島村と富岡町などは海岸線を強く要望したという。昭和七、八年の段階では国はまだどの路線を通すか未定であったが、昭和九年一月にいたり、鉄道大臣は現在の牟岐線のコースである羽ノ浦から中島・富岡(阿南)・橋・桑野への敷設を決裁した。このコースは平地線と海岸沿線を折衷したものといえることができる。鉄道路線から外れた地域の人びとには不満を残したが、全体的に見て我慢しなければならぬものであった。

路線の決定後は、鉄道の敷設工事が順調に進められて昭和十一年(一九三六)三月二七日に、羽ノ浦と桑野駅間の開通を見ることができた。それから三カ月ほど後の七月一日には古庄駅を終点としていた阿南鉄道が国に買収された。古庄駅の廃止は昭和十八年六月でそれまでは支線で営業していた。羽ノ浦駅と古庄駅間はその後、廃止され

列車 番号	駅名	桑野発	阿波橋発	見能林発	阿波富岡発	阿波中島発	羽ノ浦発	立江発	赤石発	金碓発	南小松島発	中田発	終着駅
		801系 701	803系 703	805系 705	807系 707	809系 709	811系 711	813系 713	815系 715	817系 717	819系 719	821系 721	823系 723
中田方面 (下り)	801系 701	5.39	5.49	5.55	6.01	6.07	5.28 6.19	5.33 6.28	5.37 6.32	5.42 →	5.46 6.41	5.50 6.45	徳島 7.06
	803系 703	7.20	7.30	7.36	7.42	7.48	7.29 7.58	7.34 8.04	7.38 8.08	7.43 →	7.47 8.18	7.51 8.22	徳島 8.16 徳島 8.43
	805系 705	9.25	9.38	9.42	9.49	9.56	9.26 10.09	9.31 10.15	9.35 10.20	9.40 →	9.45 10.30	9.49 10.35	徳島 10.11 徳島 10.88
	807系 707	11.40	11.51	11.57	0.02	0.09	11.17 0.21	11.22 0.27	11.26 0.31	11.31 →	11.35 0.40	11.39 0.44	徳島 0.01 徳島 1.08
	809系 709	1.30	1.41	1.47	1.54	2.02	2.14 2.54	2.23 2.59	2.28 3.03	2.38 →	2.43 3.13	2.47 3.17	徳島 3.00 徳島 3.40
	811系 711	3.25	3.36	3.42	3.47	3.54	4.06 4.44	4.12 4.50	4.16 4.53	4.25 →	4.29 5.04	4.33 5.08	徳島 4.51 徳島 5.31
	813系 713	5.40	5.51	5.57	6.04	6.12	5.23 6.26	5.29 6.33	5.32 6.38	5.38 →	5.41 6.46	5.45 6.52	徳島 6.08 徳島 7.15
	815系 715	8.46	8.56	9.02	9.08	9.14	8.22 9.26	8.27 9.32	8.31 9.36	8.36 →	8.40 9.45	8.44 9.50	徳島 10.12
	817系 717	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	819系 719	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	821系 721	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	823系 723	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
桑野方面 (上り)	702	徳島 5.47	6.09	6.14	→	6.23	6.27	6.34	6.43	6.49	6.55	7.01	7.11
	704	徳島 7.48	8.11	8.17	→	8.26	8.30	8.38	8.46	8.53	8.58	9.04	9.15
	706	徳島 8.29	8.53	8.57	→	9.06	9.10	9.15	9.23	9.30	9.35	9.41	9.51
	708	徳島 9.15	9.40	9.48	→	9.55	10.00	10.11	10.20	10.28	10.34	10.41	10.51
	710	徳島 10.28	10.51	10.56	→	11.05	11.08	11.13	11.21	11.28	11.34	11.41	11.51
	712	徳島 11.32	11.56	12.01	→	12.10	12.14	12.23	12.31	12.38	12.44	12.50	13.00
	714	徳島 0.38	1.03	1.07	→	1.16	1.20	1.25	1.33	1.40	1.46	1.52	1.58
	716	徳島 1.41	2.03	2.08	→	2.17	2.22	2.31	2.39	2.46	2.52	2.58	3.08
	718	徳島 2.39	3.03	3.12	→	3.21	3.25	3.30	3.38	3.45	3.51	3.57	4.07
	720	徳島 3.27	3.50	3.56	→	4.06	4.12	4.21	4.30	4.37	4.43	4.49	5.00
	722	徳島 4.36	4.59	5.04	→	5.13	5.17	5.22	5.30	5.37	5.43	5.49	5.59
	724	徳島 5.39	6.01	6.06	→	6.15	6.19	6.28	6.36	6.43	6.49	6.55	7.05
	726	徳島 7.28	7.51	7.55	→	7.64	7.68	7.77	7.85	7.92	7.98	8.04	8.14
	728	徳島 8.35	8.58	9.06	→	9.16	9.20	9.30	9.39	9.46	9.52	9.58	10.09
	730	徳島 9.25	9.55	9.59	→	10.08	10.12	10.17	10.25	10.32	10.38	10.44	10.54

図19 四国線汽車時刻表昭和11年7月15日広島鉄道局発行(橋本 久提供)

出身地であるという立場もあり貴重な意見を述べて、現行の路線に導いたものと思われる。

山田隆二翁記念碑は、同翁が県南の鉄道開発に大きく寄与した功労に報いるため、昭和三十六年三月、出身地である本町中島駅前建立された。

桑野駅以南の鉄道敷設工事はその後も引きつづいて進められ、昭和二十二年六月二十七日に桑野と阿波福井間が、そして同一年十二月一日に阿波福井から日和佐間が開通した。日和佐から牟岐間は同一年七月一日に開通し、それぞれ営業開始した。同八年に工事を始めてから九カ年が経過し、牟岐までの全通によって徳島駅と牟岐駅間を牟岐線と呼ぶことになった。

鐵道建設豫算

總北的に年度線路上
來年度二千七線着手
古庄牟岐間は四年
から着手十二年度迄に完成

（一）工事進行の結果自然年度
が繰り下つた（橋本隆二）
（二）年度線路上
（三）年度線路上
（四）年度線路上
（五）年度線路上
（六）年度線路上
（七）年度線路上
（八）年度線路上
（九）年度線路上
（十）年度線路上
（十一）年度線路上
（十二）年度線路上
（十三）年度線路上
（十四）年度線路上
（十五）年度線路上
（十六）年度線路上
（十七）年度線路上
（十八）年度線路上
（十九）年度線路上
（二十）年度線路上
（二十一）年度線路上
（二十二）年度線路上
（二十三）年度線路上
（二十四）年度線路上
（二十五）年度線路上
（二十六）年度線路上
（二十七）年度線路上
（二十八）年度線路上
（二十九）年度線路上
（三十）年度線路上
（三十一）年度線路上
（三十二）年度線路上
（三十三）年度線路上
（三十四）年度線路上
（三十五）年度線路上
（三十六）年度線路上
（三十七）年度線路上
（三十八）年度線路上
（三十九）年度線路上
（四十）年度線路上
（四十一）年度線路上
（四十二）年度線路上
（四十三）年度線路上
（四十四）年度線路上
（四十五）年度線路上
（四十六）年度線路上
（四十七）年度線路上
（四十八）年度線路上
（四十九）年度線路上
（五十）年度線路上
（五十一）年度線路上
（五十二）年度線路上
（五十三）年度線路上
（五十四）年度線路上
（五十五）年度線路上
（五十六）年度線路上
（五十七）年度線路上
（五十八）年度線路上
（五十九）年度線路上
（六十）年度線路上
（六十一）年度線路上
（六十二）年度線路上
（六十三）年度線路上
（六十四）年度線路上
（六十五）年度線路上
（六十六）年度線路上
（六十七）年度線路上
（六十八）年度線路上
（六十九）年度線路上
（七十）年度線路上
（七十一）年度線路上
（七十二）年度線路上
（七十三）年度線路上
（七十四）年度線路上
（七十五）年度線路上
（七十六）年度線路上
（七十七）年度線路上
（七十八）年度線路上
（七十九）年度線路上
（八十）年度線路上
（八十一）年度線路上
（八十二）年度線路上
（八十三）年度線路上
（八十四）年度線路上
（八十五）年度線路上
（八十六）年度線路上
（八十七）年度線路上
（八十八）年度線路上
（八十九）年度線路上
（九十）年度線路上
（九十一）年度線路上
（九十二）年度線路上
（九十三）年度線路上
（九十四）年度線路上
（九十五）年度線路上
（九十六）年度線路上
（九十七）年度線路上
（九十八）年度線路上
（九十九）年度線路上
（一百）年度線路上

昭和2年12月22日付、徳島毎日新聞の記事

た。中島・富岡・橋・桑野への鉄道開通と那賀川町（當時は平島村）との関係について、当時、平島村役場の書記であり、後に平島村収入役となった新田義男の談話が次のように伝えられている。

「（鉄道が桑野駅まで開通した昭和十一年）阿土海岸線鉄道開通時の平島村長宮本茂八、助役杉本徳三郎、議会議長清本澄之であった。これら村の有志は羽ノ浦・平島・富岡・見能林を通過する鉄道の敷設を政府や国会・鉄道省へ再三にわたり陳情を行っていた。特に鉄道省の高官であった平島村中島出身の山田隆二に對して村民の期待するところは大きであった。また、時の政友会所属の紅露昭代議士（桑野町出身）も精力的に誘致運動を進め、羽ノ浦から中島・桑野への鉄道が誕生したと認識している」と。（阿波学会総合学術調査報告書 那賀川町）

談話にも出ている山田隆二は鉄道省の大臣官房研究所長を務めた人物であり鉄道省が平地線を採用するか海岸沿線を採用するかで議論検討し、最終判断の段階では